

佐賀県  
景観情報誌  
vol.2

# 美 さし き が

【特集】

## 有田内山地区

[有田町有田内山重要伝統的建造物群保存地区]—西松浦郡有田町—

有田町内には国の史跡や磁器関連の名所が点在していますが、内山エリアは、番所も置かれた要地で江戸期の町家や白壁土蔵、トンバイ塀などが残ります。



〔特集〕有田町有田内山重要伝統的建造物群保存地区

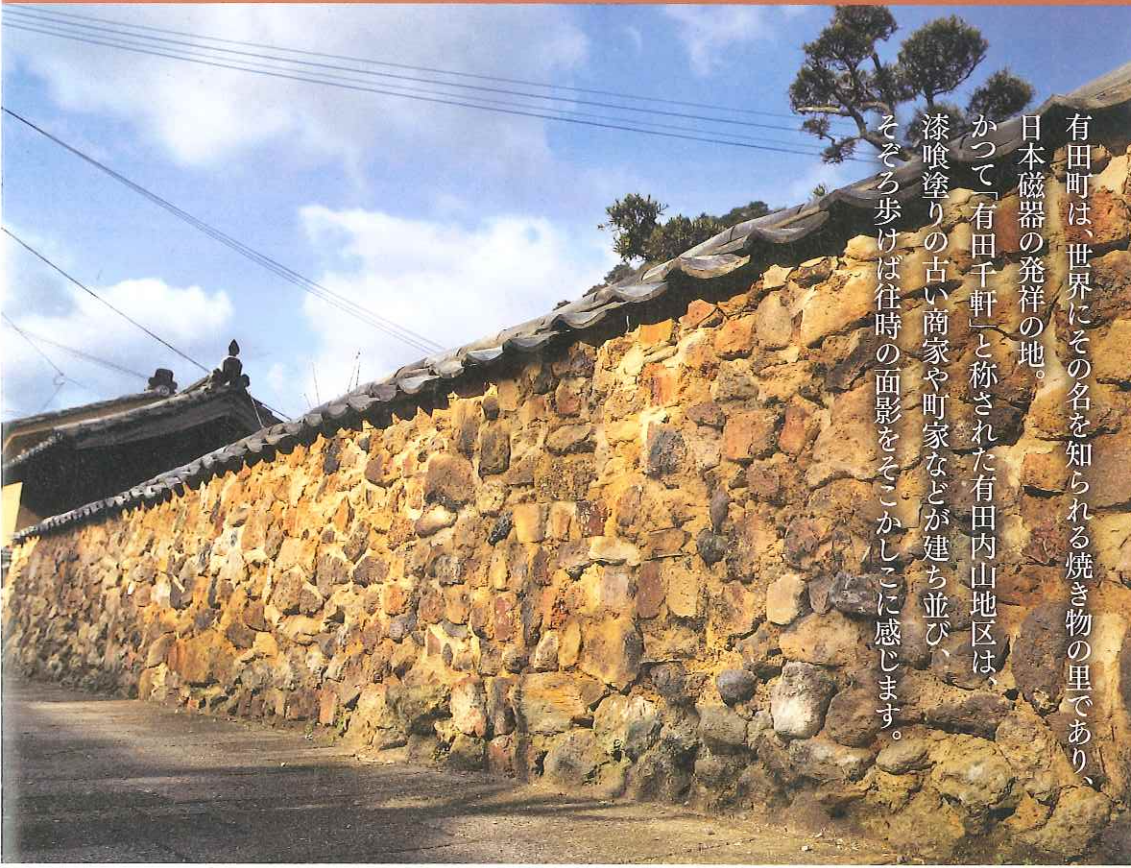
そぞろ歩きを楽しみたい

焼き物文化の歴史が

刻まれた町並み

有田町は、世界にその名を知られる焼き物の里であり、日本磁器の発祥の地。

かつて「有田千軒」と称された有田内山地区は、漆喰塗りの古い商家や町家などが建ち並び、そぞろ歩けば往時の面影をそこかしこに感じます。



江戸時代から昭和まで  
時代の変遷を映し出す  
磁器の町

白く艶やかな磁肌に、華やかな絵付けが施された有田焼。1616（元和2）年、朝鮮陶工・李参平が泉山で良質の陶石を発見してから約400年、有田町は日本を代表する磁器生産の中心地として栄えてきました。

江戸時代、「有田千軒」といわれるほど賑わいをみせた有田内山地区は、上の番所・泉山から下の番所・岩谷川内まで、約2キロメートルにわたる通りを中心としたエリア。江戸、明治、大正、昭和といった、その時代を代表する趣のある建造物が肩を寄せ合うように連なり、どこを切り取っても絵になる景観は、町全体が大きな美術館のようです。平成3年には、九州でも質が高く、変化に富んだ町並みとして、国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されています。

見て、触れて  
有田の魅力を知る町歩き

有田を代表する一大行事といえは、ゴールデンウィーク中に開催される有田陶器市。7日間で100万人もの焼き物ファンが訪れる人気イベントですが、年間の観光客の半数近

くがこの時期に集中しています。

陶器市以

外の観光客をもっと増やしたい、有田の本当の魅力を伝えたいという

思いから、NPO法人「有田町どっこむ」では、観光ガイドを養成し、町歩きの案内を4年前からスタートしました。



左より 田崎さん、深川さん、森永さん  
NPO法人 有田町どっこむ

「有田の町並みや、雰囲気を感じていただくなら、陶器市以外のシーズンがおすすです。」もう一度有田にきたい「と思ってもらえるような観光ガイドを心掛けています」と、理事長の深川祐次さん。焼き物の知識のみならず、有田の歴史や文化にも精通し、地元つ子ならではのディープな案内をしてくれるのが観光ガイドの魅力。ペテランガイドの森永邦彦さんによると、泉山から下って内山地区の表通りを歩き、トンバイ塀（登り窯を解体した後のレンガなどを赤土で固めたもの）のある路地に入ったたり、磁器製の鳥居や狛犬が出迎えてくれる陶山神社に立ち寄る約1時間半のコースが定番だとか。もちろん、それぞれの要望や所要時間にあわせて案内をしてくれるので、訪れるたびにガイドを依頼するリピーターも増えています。

滞在型の町家ステイで  
気分は有田つ子

有田の新しい魅力を発信しよう  
と行政や地域の団体等が協働して  
検討を進めているのが、町屋を利用  
した滞在型ツアーリズムです。

「京都の事例を参考に、町家に宿泊して町民のように旅を楽しんでもらうというもの。古い町家ならではの手の込んだ建具や欄間など、現代建築にないような意匠も見どころです」と、事務局長の田崎毅さん。一日だけでは物足りない、有田の町や歴史をもっとじっくり体感したい方にピッタリの新しい旅のスタイルです。

有田町では、3月22日まで焼き物の里・有田に春の訪れを知らせてくれるイベント「有田雛のやきものまつり」を開催しています。優美な磁器製のおひなさまはもちろん、華やかな春色に染まった町のそぞろ歩きもお楽しみください。路地を曲がるたびに、歩けば歩くほどに新しい有田の顔にきつと出会えるはずですよ。



有田雛のやきものまつり



「私たちの景観づくり」.....

# 歴史的な町並みをいかして 活力あるまちづくりを

NPO法人肥前浜宿水とまちなみの会 熊本義泰さん

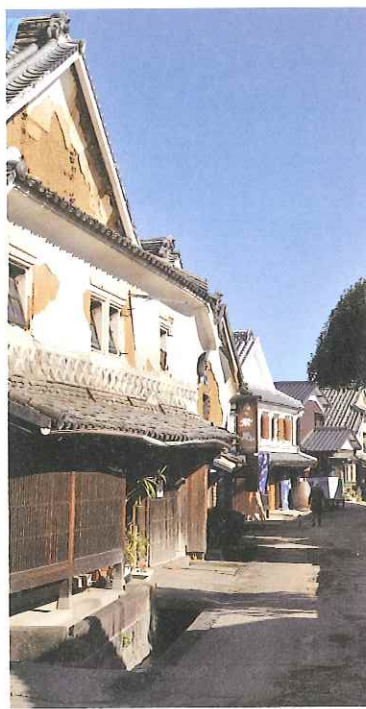
鹿島市の肥前浜宿は、江戸時代に長崎街道多良海道の宿場町として栄え、明治以降は酒造業や水産加工業など、産業が盛んな活気ある町でした。かつての賑わいをもう一度取り戻そうと、平成元年から地元有志が集まってまちづくり活動をスタート。江戸期から明治、大正、昭和初期の建造物が数多く残る、歴史的な町並みを生かした「酒蔵コンサート」や「花と酒まつり」、観光客を案内するガイドの養成などを行っています。平成18年には、白壁土蔵の建物が軒を連ねる「酒蔵通り」、茅葺き町家群の「庄金の町並み」の2地区が、重要伝統的建造物群保存地区として国の選定を受けました。老朽化が進んだ建物は、

国のサポートを受けながら、建築当初の姿へと修復していきます。古い町並みを後世に残したいのはもちろんですが、地元の人々が「この町に住みたい」と思える活力を生み出すことも大切です。昨年11月から、古い酒蔵を再利用した観光直売所「浜宿いきいき館」を会で運営していますが、これが新しい産業を興すきっかけとなり、活力のあるまちづくりにつながることを期待しています。



熊本義泰さん  
NPO法人肥前浜宿水とまちなみの会 会長

多良山系からの清らかな地下水に恵まれた肥前浜宿は、江戸時代から続く酒造の町。現在も7軒の酒屋があり、3月28日(日)には桜の見頃にあわせて、酒蔵見学や新酒の試飲、大名行列などを行う「肥前浜宿花と酒まつり」を開催。今春には肥前浜宿水とまちなみの会が運営する、お食事処がオープン予定。



古い酒蔵を再利用した観光直売所「浜宿いきいき館」

## 古民家と活かす

旧中村家  
—— 佐賀市柳町 ——  
自然食レストラン  
玄米食おひさま

旧中村家を店舗とした自然食レストラン「玄米食おひさま」は、佐賀市柳町の長崎街道沿いにあります。周辺には、「旧古賀銀行」や佐賀県遺産の「馬場家住宅」、「旧久富家住宅」などがあり、歴史的な街並みが残されています。無農薬で地元のもの、という店長の中原さんの思いが込められた食事や食材等を扱っており、地元の人だけでなく、遠方からも多くのお客さんが訪れています。

旧中村家は、明治時代に古賀銀行が開業したときに建てられ、社屋として活用されてきた建物です。店舗としての利用は不便な点も多いそうですが、独特の落ち着いた雰囲気は心地よく感じられます。

ランチは、玄米と野菜がメインで、砂糖や動物性のものが使われていなくても、十分満足できる内容です。生産者を意識した食材は、自分の子どもに、またその子どもに、いいものを残していきたいという思いから選ばれたものばかりです。「命あるものを知ってほしい。現在の活動を長く続け、自分がやっていることを伝えていきたい。」と中原さんは語ります。

また、料理教室も開催されており、若い世代にも人気があるそうです。歴史あるこの場所には、地元のを大切に、よいものを次の世代に残していくという空気が息づいています。



玄米食 おひさま  
佐賀市柳町4-3(旧中村家)  
☎0952-28-7883 FAX0952-28-7886  
大財通り「佐賀市歴史民族館」の方へ曲がり、  
旧古賀銀行斜め前

営業時間/9:00~18:30  
定休日/不定休  
※日曜祝日は18:00まで  
※ランチは数量限定のため、事前予約があれば確実です。

## 私の好きな景観

### 赤煉瓦造りの給水塔

—— 唐津市厳木町 ——

JR唐津線厳木駅そばに赤煉瓦造りの塔が佇んでいます。石碑には、「明治33年(1899年)唐津市山本から厳木駅間が開通、昭和48年には唐津線の運転の蒸気機関車は気動車へと代わる。この赤煉瓦造りの建物は、蒸気機関車に水を補給していた給水塔で、明治33年に建てられた」とあります。

蒸気機関が現役で活躍していた時代には、このような給水塔が各地の駅にあったそうですが、そのほとんどは役目を終え、解体されたそうです。しかし、厳木駅の給水塔は当時のままの姿を残しています。

111年の風雪に耐えた煉瓦がいい色合いになっています。上の方に生えた雑草も可愛らしく、大切にしたい、と思う風景です。

(唐津市在住・女性)





# 景観とは何か。

——景観をよくするとはどういうことか

昨年12月に景観講習会を開催し、景観をご専門としている堀繁先生に講演していただきました。今回は、その一部を紹介します。

## ①「景観とは何か？」

重要なことは、景観とは「もの」ではないということです。景観とは、舗装であるとか、建物、山、川ではありません。景観とは見ることであって、「もの」ではない、これが大事なポイントです。

## ②「景観を理解するために必要なことは？」

景観とは見るからですから、景観の理解に必要なものはたった二つです。「人間が見ること」を理解すること。それを理解しない限り、町並み景観も、自然景観も、河川景観も、道路景観も理解できません。

## ③「では、人間が「見る」ということは？」

私たちは目に入ってくるすべてを等しく見ていません。二つのものを選択して見ます。それは「見たいもの」と「見やすいもの」です。

◎「見たいもの」というのは理解、認識の手掛かりとなるものです。どん

な所なのか、見ているものが何なのかということ。例えば、見ているものが港町なのか、城下町なのか。

◎「見やすいもの」というのは、見やすい大きさのもの。これは見込み角が10度から20度です。

## ④「見やすい大きさをどのくらい？」

見込み角が10度から20度ってどのくらいなのでしょう？真つすぐ手を伸ばしてください。そして、こぶしを作って、立ててください。その状態が、今、皆さんの目に、皆さんのこぶしが見込み角10度で見えています。今度は、手をパーに開いて、それを立ててください。これが、今パーが皆さんの目に見込み角20度で飛び込んでいます。つまり、見やすい大きさというのはグーからパーと覚えてください。

## ⑤「よい景観とは？なぜ景観が重要な？」

よい景観とは、見たいものが見やすい状態にあることです。これがよい景観の定義です。この定義で一番

大事なことは、好みや、センス、お金をかけたとかということが一言も入らないことです。

景観が成立するのに不可欠なのはたった一つです。それは見る場所です。見ないと景観は成立しないのです。景観、つまり見ることは、われわれの頭が認識、評価、判断するための情報収集なのです。いい所だとか、悪い所だとか判断したり、行ってみようとか、二度と行きたくないと判断したり。目は頭のために情報を収集しています。そして、見たいものが見やすい状態になると、たちどころに認識、評価、判断ができて、いいなと思うということです。それが景観なのです。

佐賀に来た人たちは、佐賀の景観によって佐賀を評価しています。佐賀の「景観がいい」と、佐賀は「よいところ」と思います。あるまちの「景観がよくない」と、「たいくつなまちだ」と思います。つまり、景観で評価されている、ということですから、景観が重要なのです。ぜひ景観に関心を持って、佐賀の景観を良くすることにみんなで取り組んでください。



堀 繁 先生

東京大学アジア生物資源環境研究センター教授  
佐賀県美しい景観づくりアドバイザー

国土審議会、歴史的風土審議会の各専門委員のほか、国、地方公共団体の各委員等を歴任。山形県の銀山温泉で「和楽足湯(わらしゆ)」の計画・設計に携わるなど、地域の発展を前提とした景観デザイン、アメニティ、観光リゾート、自然環境保全の計画設計を中心課題としている。

## Information

### ◆平成21年度佐賀県遺産を認定しました

佐賀県遺産とは、地域の宝というべき「美しい景観の地区」や「地域のシンボルとなっている建造物」です。今年度、新たに4件を佐賀県遺産に認定しました。

○東与賀の干潟を望む  
シチメンソウ群生地(佐賀市東与賀町)



○古木の杜 河内大山祇神社  
(鳥栖市河内町)



○下村湖人生家  
(神埼市千代田町)



○旧古賀銀行神埼支店  
(神埼市神埼町)



### ◆4月1日から屋外広告物の設置ルールが変わります

県内の美しい景観を保全するため、佐賀県屋外広告物条例を改正し、4月1日から施行します。詳しくは… [佐賀県 屋外広告物](#) [検索](#)